

タイ語でエイズ相談

在日外国人に医療情報を提供している民間団体AMDA国際医療情報センター（東京）は一日から、タイ語による電話エイズ相談や、一部地域の医療機関などに日本語のできるタイ人看護婦を派遣するなどのサービスを三か月間の予定で、試験的に始めた。

厚生省の一九九四年度の報告によると、国内のHIV（エイズウイルス）感染者、エイズ患者のうち、男性の三〇％、女性の八〇％は外国人。全国的な国籍別統計はないが、例えば長野県内の六つの医療機関の調査では、「九一年から九五年二月までの間にHIV感染者と診断された六十九人中、外国人は六十七人、そのうち六十三人がタイ人」とい

った結果が出ており、全国でもタイ人感染者の多いことが推測される。「国内でのエイズ感染を防ぐ意味からも、日本在住のタイ人感染者について、人権に配慮しつつ調査や対策を急がなくては」と同センターの小林米幸所長は言うが、在日タイ人の多くが日本語も英語もよくできないために相談窓口はほとんどない。

在日感染者を救護

このため、同センターでは毎週月曜日にタイ人看護婦による電話エイズ相談を開設。タイ語による一般の相談も月

一金曜に受ける。また医療機関、保健所から要請を受けてタイ人看護婦を派遣、患者へのカウンセリングや今後の生活指導を行うほか、在日タイ人に対する感染予防啓発活動に取り組む。

いずれも無料だが、看護婦派遣などは、費用とタイ人の居住状況などの関係で関東、甲信越、静岡に限る。三か月間の結果を踏まえて来年度以降の実施も検討する。

相談は同センター（03・

52665・80808）へ。

AMDA国際医療情報センター 試験的 電話や看護婦派遣